

**製品名: OTUB2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15535**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	27kDa

**抗原情報**

遺伝子名	OTUB2 OTUB2; C14orf137; OTB2; OTU2; Ubiquitin thioesterase OTUB2; Deubiquitinating enzyme
別名	OTUB2; OTU domain-containing ubiquitin aldehyde-binding protein 2; Otubain-2; Ubiquitin-specific-processing protease OTUB2
遺伝子 ID	78990.0
SwissProt ID	Q96DC9
免疫原	抗血清はヒト OTUB2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 133-182

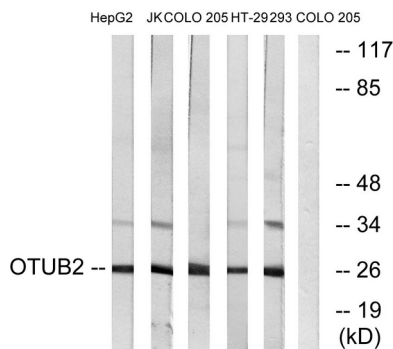
**背景**

OTU 脱ユビキチン化酵素、ユビキチンアルデヒド結合 2 (OTUB2) ホモサピエンス この遺伝子は、複数の脱ユビキチン化酵素の 1 つをコードしています。タンパク質のユビキチン修飾は、その安定性と機能に不可欠です。このプロセスを逆転させるため、脱ユビキチン化酵素はユビキチンを除去します。このタンパク質は OTU ドメインを含み、Ubal (ユビキチンアルデヒド) に結合します。OTU ドメインには活性システインプロテアーゼ部位が存在します。[RefSeq 提供、2011 年 8 月],機能: in vitro でタンパク質から共役ユビキチンを除去できる加水分解酵素であり、分解を防ぐことでタンパク質のターンオーバーレベルで重要な調節的役割を果たす可能性があります。類似性: ペプチダーゼ C65 ファミリーに属します。類似性: 1 つの OTU ドメインを含みます。組織特異性: 広く発現しています。脳でより高レベルで発現しています。、

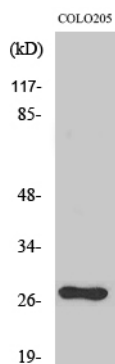
## 研究分野

転写、ドメインファミリー、発達ファミリー、がん、シグナル伝達、エピジェネティクスと核シグナル伝達、ユビキチンおよびユビキチン様修飾子、脱ユビキチン化、細胞生物学、タンパク質分解/ユビキチン、プロテアソーム/ユビキチン

## 画像データ



COLO 細胞、HepG2 細胞、Jurkat 細胞、293 細胞、HT-29 細胞のライセートを OTUB2 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 に希釈した OTUB2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析